

平成30年8月1日

環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生のための学会 (環境放射能除染学会) 功労賞受賞について

7月3日に開催された環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生のための学会(通称:環境放射能除染学会)主催の第7回 環境放射能除染研究発表会において、福島大学放射線計測チームに「功労賞」が授与されました。東日本大震災直後に共生システム理工学類の有志教員が行った、福島県内各地の放射線量測定やマップ化等による福島の実地環境改善への貢献が認められたものです。

なお、当時の活動については現在の学生にも廃炉パンフレットなどを通して語り継がれている内容となっています。

【受賞概要】

- ・環境放射能除染学会功労賞「福島大学放射線計測チーム」
- ・受賞理由:

原発事故直後の2011年3月19日にスタート。福島県内各地の放射線量をいち早く実測し、マップ化するなどしてわかりやすく情報提供。そのデータは計画的避難区域の設定をはじめ、多くの施策に活用された。また、原子力災害について、データに基づき理解し対応していく基礎を築いた。これらの活動により、科学・技術の進歩発展及び福島の実地環境改善に著しい貢献があったと認められる。

当時は、測定器や現地へ赴く自動車用燃料も充分でない中で、共生システム理工学類の様々な分野の教員が知恵を出し合いながら、地域に必要な科学的データの収集と情報公開に努めておりました。地域におけるこのような地道な活動を評価していただき、関係者一同喜ばしく思っております。

放射線計測チームによる活動が、後にうつくしまふくしま未来支援センターの環境エネルギー部門(現在は、農・環境復興支援部門)や環境放射能研究所での研究へと繋がりました。

なお、当時の活動については、現在の学生にも是非知っておいてもらいたいと考えており、別紙にて配布しましたパンフレット「廃炉について考える」(8頁)などを用いて語り継がれているものとなっています。

【環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生のための学会について】

本学会は、環境放射能の除染に向けて国際性を持った総合科学的学術団体として発足しました。現在は個人会員約 280 名、法人・公益会員約 60 社という規模の学会です。

放射化学、土木学、水環境学、廃棄物学、環境化学、環境法学、無機化学、環境経済学、リスク学、放射線生物学といった多くの基礎科学、および応用科学の参加のもとで展開をしています。

【参考】

- ・福島大学放射線計測チーム

<http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/FURAD/FURAD/top.html>

- ・福島大学 放射線に関する取り組み

<http://www.fukushima-u.ac.jp/guidance/top/torikumi-housyasen.html>

(お問い合わせ先)

共生システム理工学類教授 山口克彦

電話：024-548-8189

メール：yama@sss.fukushima-u.ac.jp